

**石原吉郎 奇酷な抑留生活から孤高の作品を生み出した詩人。**

いしはらよしろう

21ヶ条要求・1915 = 静岡県田方郡土肥村で、不幸続きの旧家の電気技術者石原稔の長男に生まれる。

**1ヶ条要求**・1919 = 4歳：弟健二が誕生するも、母が産後の病状悪化で死去。父の迎えた継母になじめず、

**原敬首相暗殺**1921 = 6歳：この間、父の仕事の関係で、東京と地方の間を度々転居、孤独で劣等感を強めるようになる。

**護憲三派圧勝**1924 = 9歳：

- 共産党事件・1928 = 13歳：攻玉社中学に進学するも、  
**世界恐慌**・1929 = 14歳：父の転勤で、新潟中学に転校、  
海軍軍縮条約1930 = 15歳：攻玉社に戻り、  
**満州事変**・1931 = 16歳：島崎藤村「若菜集」に熱中、  
生田春月訳「ハイネ詩集」を読んで、春月に傾倒するなどして、  
**国際連盟脱退**1933 = 18歳：卒業。機関誌(攻玉)に「都会の横顔」が掲載される。東京高等師範を受験して失敗し、自殺も試みる。  
帝人疑獄事件1934 = 19歳：再挑戦するも失敗し、東京外国語学校ドイツ部貿易科に入学、  
芥川直木賞始1935 = 20歳：エスペラントに関心抱き、校内でサークルを組織、マルクス主義にも傾倒、  
二二六事件・1936 = 21歳：文芸部に入る。北条民雄の作品に出会い衝撃を受ける。  
**日中戦争始**・1937 = 22歳：校友会雑誌(炬火)の編集に当る  
健保+総動員1938 = 23歳：卒業。大阪ガスに入社し研究部に勤務。徴兵検査を受けるも第二乙種。姫松教会に移り、受洗。  
第二次大戦始1939 = 24歳：神学校受験すべく退社し上京、信濃町教会に転籍。 応召。静岡市歩兵第34連隊に入隊し歩兵中隊に所属。  
大政翼賛会・1940 = 25歳：北方情報要員第一期生として、大阪歩兵第37連隊内大阪露語教育隊へ派遣され、新設の高等科に進み、  
**日米開戦**・1941 = 26歳：修了し、ハルピンの関東軍司令部・関東軍情報部に配属。  
.....1942 = 27歳：応集解除。ひきつづき関東軍特殊通信情報隊(秘匿名称は満州電々調査局)に徴用。  
時々”石原の髯口ストーム”といわれる決闘をしかけるほど血気さかんで、同僚と(寮報)を出して、詩を発表する一方、ピアノでモーツァルトを演奏する面も見せる。  
**敗戦**.....1945 = 30歳：ソ連が対日宣戦布告後、終戦。密告によりエム・ベ・デ(ソ連内務省)によって拘留され、ソ連領へ。  
新憲法公布・1946 = 31歳：この年、父が死去。アルマ・アタ第三分所に収容。  
以後、中央アジア・シベリアの強制収容所を転々とし、  
極東裁判決・1948 = 33歳：カラガンダ市郊外の日本軍捕虜収容所に収容。  
三大事件.....1949 = 34歳：中央アジア軍管区軍法会議カラガンダ臨時法廷へ引き渡され、ロシア共和国刑法により起訴され、死刑廃止後の最高刑重労働25年の判決。バム(バイカル アムール)鉄道(第二シベリア鉄道)を北上、沿線密林地帯の収容所(コロナ33)に収容。森林伐採に従事。  
**朝鮮戦争始**・1950 = 35歳：コロナ30へ移動。流木・土工・鉄道工事・採石などに従事。ハバロフスク市第6分所に収容。  
**独立回復**・1951 = 36歳：  
**フルビ**放送始・1953 = 38歳：\*スターリン死去で特赦になり、日本へ帰還。読売新聞記者の取材を受け、夕刊記事に。帰郷するも、親族からアカ呼ばわりされ、以後、ふるさとと断絶。ようやく英語翻訳のアルバイトを得るも、他者の仕事を奪ってしまうことに愕然とし辞める。{文芸倶楽部}に詩「夜の招待」が特選となり、一躍注目される。  
**55年体制始**・1955 = 40歳：若手詩人らと、{ロシナンテ}を創刊。「サンチョ・パンサの帰郷」が{文芸倶楽部}コンクールで第四席。掩が外れたように、飲み歩き、赤線地帯にも出没するが、親友鹿野武一の急逝もあって、自己確認の苦闘を始めるとともに、産業経済研究所に定職を得、{文芸倶楽部}に詩「自転車にのるクラリメント」が掲載されて声価が高まるが、  
国連加盟.....1956 = 41歳：田中和江と結婚。{ロシナンテ}を一旦解散し、同人制にして再発行、  
なべ底不況・1957 = 42歳：社長が急逝して倒産したため、職を失い、異動先も解散となって、失業。  
**イスタラーム**・1958 = 43歳：ラーゲリ仲間の縁で、海外電力調査会の臨時職員となり、やはり仲間が主宰する俳句誌{雲}に参加、  
美智子妃.....1959 = 44歳：{ロシナンテ}を解散。改心作と自讃の「耳鳴りのうた」。弟はじめ親族に絶縁状。  
**安保闘争**.....1960 = 45歳：埼玉県の公団団地に入居できたが、環境になじめずノイローゼ。  
TV宇宙中継始1963 = 48歳：\*第一詩集「サンチョ・パンサの帰郷」を刊行し、  
**東京初ルック**1964 = 49歳：H氏賞後、  
それまでに失ってきたもの・黙ってきたもの大きさからか、精神に異常をきたすことも度々、  
美濃部都知事1967 = 52歳：「石原吉郎詩集」、  
全共闘.....1969 = 54歳：この年から、抑留時のことをエッセイにして次々発表。「石原吉郎詩集」、  
**大阪万博**.....1970 = 55歳：\*傑作詩「フェルナンデス」。エッセイをまとめた「日常への強制」は小出版社のため注目されなかったが、あまりの真実の凄さに苦闘、緊張緩和のための飲酒が後にアルコール依存症へと発展、  
**日中国交回復**1972 = 57歳：筑摩から抑留時エッセイ集「望郷と海」として刊行されるや、大反響で、歴程賞となるも、  
**石油ショック**1973 = 58歳：妻和江の精神状態が悪化し入院。  
角栄金脈辞任1974 = 59歳：第五詩集「礼節」、評論集「海を流れる河」、  
ケアンール事件1975 = 60歳：推されて日本現代詩人会会長。取り巻く女流詩人にラブレターや深夜電話など奇行。「北条」、  
田中角栄逮捕1976 = 61歳：「石原吉郎全詩集」、評論集「断念の海から」。\*ついに精神に破綻をきたし、またアル中で倒れて入院、  
JALハイジャック・1977 = 62歳：最後の詩集「足利」をまとめ、入浴中に没した。